

日本思想史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史特論Ⅰ	出版文化史研究の成果を読む	2	引野 亨輔	前期 火曜日 4講時	
日本思想史特論Ⅲ	出版文化史研究の成果を読む	2	引野 亨輔	前期 火曜日 4講時	
日本思想史特論Ⅱ	肉食をめぐる日本思想史	2	引野 亨輔	後期 火曜日 4講時	
日本思想史特論Ⅳ	肉食をめぐる日本思想史	2	引野 亨輔	後期 火曜日 4講時	
日本比較思想史特論Ⅰ	柳宗悦論Ⅱ	2	片岡 龍	後期 月曜日 3講時	
日本比較思想史特論Ⅱ	柳宗悦論Ⅱ	2	片岡 龍	後期 月曜日 3講時	
日本文化思想史特論Ⅰ	柳宗悦論Ⅰ	2	片岡 龍	前期 月曜日 3講時	
日本文化思想史特論Ⅱ	柳宗悦論Ⅰ	2	片岡 龍	前期 月曜日 3講時	
日本思想史総合演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍・引野 亨輔	前期 水曜日 4講時	
日本思想史総合演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍・引野 亨輔	後期 水曜日 4講時	
日本思想史総合演習Ⅲ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍・引野 亨輔	前期 水曜日 4講時	
日本思想史総合演習Ⅳ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍・引野 亨輔	後期 水曜日 4講時	
日本思想史研究演習Ⅰ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍・引野 亨輔	前期 水曜日 5講時	
日本思想史研究演習Ⅱ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍・引野 亨輔	後期 水曜日 5講時	

日本思想史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本思想史研究演習Ⅲ	日本思想史の諸問題Ⅰ	2	片岡 龍.引野 亨輔	前期 水曜日 5講時	
日本思想史研究演習Ⅳ	日本思想史の諸問題Ⅱ	2	片岡 龍.引野 亨輔	後期 水曜日 5講時	

科目名：日本思想史特論 I / History of Japanese Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12401, 科目ナンバリング：LJS-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：出版文化史研究の成果を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading the Results of Research on the History of Publishing Culture
3. 授業の目的と概要：出版文化史研究の発展は、思想史の方法論にも大きな影響を与えた。書き手の独占物とみなされることが多かった著作物も、近年では、出版社によって意図的に改変され、読み手の「誤読」によって豊かな意味を生成していくものと捉えられている。本授業では、こうした研究動向を受講生たちにしかりと把握させ、思想史の新たな研究方法を身に付けてもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The development of research on the history of publishing culture has had a great impact on the method of the history of thought. In recent years, literary works, which were often regarded as the exclusive property of the author, are now seen as being deliberately altered by the publisher and generating rich meaning through the “misreading” of the reader. In this course, students will be able to gain a firm grasp of these research trends and acquire new research methods for the history of thought.
5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、出版文化史研究の最新動向を把握し、思想史の新たな研究方法を身に付けることである。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to grasp the latest trends in research on the history of publishing culture and acquire new research methods for the history of thought.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
授業ごとに 1 本ずつ学術論文を取り上げ、受講生の問題提起発表と、その後の討論によって論文への理解を深める。

第 1 回：ガイダンスー出版文化史の最新動向ー
第 2 回：蔵書資料の可能性ー若尾政希氏の業績を読むー
第 3 回：江戸時代の知的読書ー横田冬彦の業績を読むー
第 4 回：江戸時代の女性読者ー青木美智男の業績を読むー
第 5 回：江戸時代の文字学び①ー梅村佳代の業績を読むー
第 6 回：江戸時代の文字学び②ー鈴木理恵の業績を読むー
第 7 回：江戸時代の文字学び③ー八鍬友広の業績を読むー
第 8 回：江戸時代の出版資本①ー藤實久美子の業績を読むー
第 9 回：江戸時代の出版資本②ー鈴木俊幸の業績を読むー
第 10 回：江戸時代の出版ネットワークー吉田麻子の業績を読むー
第 11 回：民俗と文字知ー小池淳一の業績を読むー
第 12 回：近代的出版文化への変容①ー和田敦彦の業績を読むー
第 13 回：近代的出版文化への変容②ー稲岡勝の業績を読むー
第 14 回：近代的出版文化への変容③ー浅岡邦雄の業績を読むー
第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
担当回の発表 40%、通常授業への参加度 30%、課題レポート 30%
9. 教科書および参考書：
教科書：使用する論文については、授業中に適宜指示する。
参考書：『書籍文化とその基底』（若尾政希編、平凡社）
10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。
授業ごとに指定する課題論文については、受講生全員が事前に精読する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅲ／ History of Japanese Thought(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM12402, 科目ナンバリング：LJS-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：出版文化史研究の成果を読む

2. Course Title (授業題目)：Reading the Results of Research on the History of Publishing Culture

3. 授業の目的と概要：出版文化史研究の発展は、思想史の方法論にも大きな影響を与えた。書き手の独占物とみなされることが多かった著作物も、近年では、出版社によって意図的に改変され、読み手の「誤読」によって豊かな意味を生成していくものと捉えられている。本授業では、こうした研究動向を受講生たちにしかりと把握させ、思想史の新たな研究方法を身に付けてもらう。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The development of research on the history of publishing culture has had a great impact on the method of the history of thought. In recent years, literary works, which were often regarded as the exclusive property of the author, are now seen as being deliberately altered by the publisher and generating rich meaning through the “misreading” of the reader. In this course, students will be able to gain a firm grasp of these research trends and acquire new research methods for the history of thought.

5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、出版文化史研究の最新動向を把握し、思想史の新たな研究方法を身に付けることである。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to grasp the latest trends in research on the history of publishing culture and acquire new research methods for the history of thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業ごとに 1 本ずつ学術論文を取り上げ、受講生の問題提起発表と、その後の討論によって論文への理解を深める。

第 1 回：ガイダンスー出版文化史の最新動向ー

第 2 回：蔵書資料の可能性ー若尾政希氏の業績を読むー

第 3 回：江戸時代の知的読書ー横田冬彦の業績を読むー

第 4 回：江戸時代の女性読者ー青木美智男の業績を読むー

第 5 回：江戸時代の文字学び①ー梅村佳代の業績を読むー

第 6 回：江戸時代の文字学び②ー鈴木理恵の業績を読むー

第 7 回：江戸時代の文字学び③ー八鍬友広の業績を読むー

第 8 回：江戸時代の出版資本①ー藤實久美子の業績を読むー

第 9 回：江戸時代の出版資本②ー鈴木俊幸の業績を読むー

第 10 回：江戸時代の出版ネットワークー吉田麻子の業績を読むー

第 11 回：民俗と文字知ー小池淳一の業績を読むー

第 12 回：近代的出版文化への変容①ー和田敦彦の業績を読むー

第 13 回：近代的出版文化への変容②ー稲岡勝の業績を読むー

第 14 回：近代的出版文化への変容③ー浅岡邦雄の業績を読むー

第 15 回：まとめ

8. 成績評価方法：

担当回の発表 40%、通常授業への参加度 30%、課題レポート 30%

9. 教科書および参考書：

教科書：使用する論文については、授業中に適宜指示する。

参考書：『書籍文化とその基底』（若尾政希編、平凡社）

10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。

授業ごとに指定する課題論文については、受講生全員が事前に精読する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○”Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅱ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22402, 科目ナンバリング：LJS-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：肉食をめぐる日本思想史
2. Course Title (授業題目)：The History of Japanese Thought on Carnism
3. 授業の目的と概要：日本の歴史のなかで、諸思想家・宗教家は、動物の肉を食べない／もしくは食べるという行為について、様々な議論を行ってきた。前近代に行われた肉食をめぐる議論において興味深いのは、動物を食べる人間／人間に食べられる動物という二項対立的な図式が、まだ自明の事実となっていない点である。日本人は、人間が動物を食べるという一方的な関係性を、いつから自明のものとして認識し始めたのだろうか。また、そのような社会常識は、なぜ近年になって急速に揺らぎ始めたのだろうか。本授業では、古代から近代にかけて記された肉食をめぐる諸史料を取り上げる。そして、それらの史料を受講生たちに精読させることで、常識的な物の見方に対する批判的分析のテクニックを身に付けてもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Throughout Japanese history, philosophers and religious leaders have debated whether or not to eat animal meat. What is interesting about pre-modern discussions on meat eating is that the dichotomy between human eating animals and animals eaten by human has not yet become a self-evident fact. When did the Japanese begin to accept the one-sided relationships of humans eating animals as self-evident? Also, why has such social common sense begun to shake rapidly in recent years? In this course, we will take up various historical materials concerning meat-eating written from ancient times to modern times. By having students read these historical materials carefully, they will acquire techniques for critical analysis of common-sense ways of thinking.
5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、肉食をめぐる諸史料を的確に読解し、多角的な分析を加えられるようになることである。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to read and understand various historical materials concerning meat eating accurately and to be able to add multifaceted analysis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第 1 回：ガイダンスー肉を食べない／食べる思想ー
第 2 回：古代における肉食の実態ー『日本霊異記』を読むー
第 3 回：中世における肉食の実態ー『今昔物語集』を読むー
第 4 回：中世仏教における肉食論ー無住『沙石集』を読むー
第 5 回：中世神道における肉食論ー『神道集』を読むー
第 6 回：異国人から見た日本の肉食ールイス・フロイス『日欧文化比較』を読むー
第 7 回：中世の肉食と差別ー寛如『口伝鈔』を読むー
第 8 回：近世水土論のなかの肉食ー熊沢蕃山『集義外書』を読むー
第 9 回：近世養生論のなかの肉食ー貝原益軒『大和本草』を読むー
第 10 回：近世の米と肉ー安藤昌益『統道真伝』を読むー
第 11 回：近世僧侶の末法観と肉食論ー知空『肉食妻帯弁』を読むー
第 12 回：近世の文献考証主義と肉食論ー伴信友『猷穴塩湯考』を読むー
第 13 回：文明開化と肉食ー福沢諭吉『肉食之説』を読むー
第 14 回：近代化のなかの仏教と肉食ー鈴木大拙『米国通信』を読むー
第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
担当回の発表 40%、通常授業への参加度 30%、課題レポート 30%
9. 教科書および参考書：
教科書：使用する史料については、授業中に適宜指示する。
参考書：『歴史のなかの米と肉』（原田信男、平凡社）
10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。
授業ごとに指定する史料は、受講生全員が事前に精読する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本思想史特論Ⅳ／ History of Japanese Thought (Advanced Lecture) IV

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：引野 亨輔

コード：LM22403, 科目ナンバリング：LJS-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：肉食をめぐる日本思想史
2. Course Title (授業題目)：The History of Japanese Thought on Carnism
3. 授業の目的と概要：日本の歴史のなかで、諸思想家・宗教家は、動物の肉を食べない／もしくは食べるという行為について、様々な議論を行ってきた。前近代に行われた肉食をめぐる議論において興味深いのは、動物を食べる人間／人間に食べられる動物という二項対立的な図式が、まだ自明の事実となっていない点である。日本人は、人間が動物を食べるという一方的な関係性を、いつから自明のものとして認識し始めたのだろうか。また、そのような社会常識は、なぜ近年になって急速に揺らぎ始めたのだろうか。本授業では、古代から近代にかけて記された肉食をめぐる諸史料を取り上げる。そして、それらの史料を受講生たちに精読させることで、常識的な物の見方に対する批判的分析のテクニックを身に付けてもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Throughout Japanese history, philosophers and religious leaders have debated whether or not to eat animal meat. What is interesting about pre-modern discussions on meat eating is that the dichotomy between human eating animals and animals eaten by human has not yet become a self-evident fact. When did the Japanese begin to accept the one-sided relationships of humans eating animals as self-evident? Also, why has such social common sense begun to shake rapidly in recent years? In this course, we will take up various historical materials concerning meat-eating written from ancient times to modern times. By having students read these historical materials carefully, they will acquire techniques for critical analysis of common-sense ways of thinking.
5. 学習の到達目標：本授業の到達目標は、肉食をめぐる諸史料を的確に読解し、多角的な分析を加えられるようになることである。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：The goal of this course is to read and understand various historical materials concerning meat eating accurately and to be able to add multifaceted analysis.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は、受講生による発表と討論を柱として進める。

第 1 回：ガイダンスー肉を食べない／食べる思想ー
第 2 回：古代における肉食の実態ー『日本霊異記』を読むー
第 3 回：中世における肉食の実態ー『今昔物語集』を読むー
第 4 回：中世仏教における肉食論ー無住『沙石集』を読むー
第 5 回：中世神道における肉食論ー『神道集』を読むー
第 6 回：異国人から見た日本の肉食ールイス・フロイス『日欧文化比較』を読むー
第 7 回：中世の肉食と差別ー寛如『口伝鈔』を読むー
第 8 回：近世水土論のなかの肉食ー熊沢蕃山『集義外書』を読むー
第 9 回：近世養生論のなかの肉食ー貝原益軒『大和本草』を読むー
第 10 回：近世の米と肉ー安藤昌益『統道真伝』を読むー
第 11 回：近世僧侶の末法観と肉食論ー知空『肉食妻帯弁』を読むー
第 12 回：近世の文献考証主義と肉食論ー伴信友『猷穴塩湯考』を読むー
第 13 回：文明開化と肉食ー福沢諭吉『肉食之説』を読むー
第 14 回：近代化のなかの仏教と肉食ー鈴木大拙『米国通信』を読むー
第 15 回：まとめ
8. 成績評価方法：
担当回の発表 40%、通常授業への参加度 30%、課題レポート 30%
9. 教科書および参考書：
教科書：使用する史料については、授業中に適宜指示する。
参考書：『歴史のなかの米と肉』（原田信男、平凡社）
10. 授業時間外学習：発表担当となった受講生は、事前に適宜準備を進める。
授業ごとに指定する史料は、受講生全員が事前に精読する。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：日本比較思想史特論 I / Comparative history of Japanese thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21301, 科目ナンバリング：LJS-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：柳宗悦論 II

2. Course Title (授業題目) : Study on Yanagi Muneyoshi II

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『柳宗悦全集』からセレクト）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『柳宗悦全集』).

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、イシュー特定など）を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第 1 回：ガイダンス

第 2 回：柳宗悦の人と思想 II

第 3 回：朝鮮の友に贈る書

第 4 回：彼の朝鮮行

第 5 回：朝鮮の美術

第 6 回：失はれんとする一朝鮮建築のために

第 7 回：雑器の美

第 8 回：「工芸の道」緒言

第 9 回：工芸の美

第 10 回：工芸美論の先駆者に就いて

第 11 回：「茶」の病ひ

第 12 回：利休と私

第 13 回：日本の眼

第 14 回：蒐集に就いて

第 15 回：美の法門

※第 2～15 回のテキストは、鶴見俊輔編『柳宗悦集』（近代日本思想体系 24、筑摩書房）からの例示
定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点 100%（出席 40%、発表・討論 60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）：授業中に適宜資料を配布します。

参考書：水尾比呂志『評伝 柳宗悦』（ちくま学芸文庫）

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本比較思想史特論Ⅱ／Comparative history of Japanese thought(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM21302, 科目ナンバリング：LJS-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：柳宗悦論Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Study on Yanagi Muneyoshi Ⅱ

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『柳宗悦全集』からセレクト）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『柳宗悦全集』).

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、イシュー特定など）を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：柳宗悦の人と思想Ⅱ

第3回：朝鮮の友に贈る書

第4回：彼の朝鮮行

第5回：朝鮮の美術

第6回：失はれんとする一朝鮮建築のために

第7回：雑器の美

第8回：「工芸の道」緒言

第9回：工芸の美

第10回：工芸美論の先駆者に就いて

第11回：「茶」の病ひ

第12回：利休と私

第13回：日本の眼

第14回：蒐集に就いて

第15回：美の法門

※第2～15回のテキストは、鶴見俊輔編『柳宗悦集』（近代日本思想体系24、筑摩書房）からの例示
定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）：授業中に適宜資料を配布します。

参考書：水尾比呂志『評伝 柳宗悦』（ちくま学芸文庫）

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本文化思想史特論 I / History of Japanese Culture Thought (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11301, 科目ナンバリング：LJS-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：柳宗悦論 I

2. Course Title (授業題目)：Study on Yanagi Muneyoshi I

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『柳宗悦全集』からセレクト）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『柳宗悦全集』).

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、イシュー特定など）を身に着ける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：柳宗悦の人と思想

第3回：宗教的「無」

第4回：宗教的時間

第5回：存在の宗教的意味

第6回：神の愛と救ひとに就いて

第7回：思想家としてのブレーク

第8回：木喰上人発見の縁起

第9回：一遍上人

第10回：仏教と悪

第11回：妙好人の入信

第12回：妙好人の辞世の歌

第13回：神と仏

第14回：心偈

第15回：朝鮮人を想ふ

※第2～15回のテキストは、鶴見俊輔編『柳宗悦集』（近代日本思想体系24、筑摩書房）からの例示
定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）：授業中に適宜資料を配布します。

参考書：水尾比呂志『評伝 柳宗悦』（ちくま学芸文庫）

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本文化思想史特論Ⅱ／History of Japanese Culture Thought(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍

コード：LM11302, 科目ナンバリング：LJS-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：柳宗悦論Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Study on Yanagi Muneyoshi Ⅰ

3. 授業の目的と概要：日本の思想文化を研究するための基本知識を身に付けることを目的とし、テキスト（『柳宗悦全集』からセレクト）を精読した発表をもとに、対話をとおして思想史の方法論的自覚を高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose is to acquire the basic knowledge for studying Japanese thought and culture, and to raise the methodological awareness of the history of thought through dialogue based on presentations that carefully read the text (『柳宗悦全集』).

5. 学習の到達目標：思想史学の基本的な研究方法（文献調査、伝記研究、イシュー特定など）を身に着ける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquire the basic research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は基本的に発表・対話形式で進める。

第1回：ガイダンス

第2回：柳宗悦の人と思想

第3回：宗教的「無」

第4回：宗教的時間

第5回：存在の宗教的意味

第6回：神の愛と救ひとに就いて

第7回：思想家としてのブレーク

第8回：木喰上人発見の縁起

第9回：一遍上人

第10回：仏教と悪

第11回：妙好人の入信

第12回：妙好人の辞世の歌

第13回：神と仏

第14回：心偈

第15回：朝鮮人を想ふ

※第2～15回のテキストは、鶴見俊輔編『柳宗悦集』（近代日本思想体系24、筑摩書房）からの例示
定期試験：なし

8. 成績評価方法：

平常点100%（出席40%、発表・討論60%）

9. 教科書および参考書：

教科書（テキスト）：授業中に適宜資料を配布します。

参考書：水尾比呂志『評伝 柳宗悦』（ちくま学芸文庫）

10. 授業時間外学習：発表担当の準備だけでなく、毎回の討論に備えて各回のテキストに事前に目を通しておく。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習 I / History of Japanese Thought(Integration Seminar)I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13404, 科目ナンバリング：LJS-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業（半分以上）とリアルタイム型オンライン授業の併用

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Integration Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23405, 科目ナンバリング：LJS-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅲ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13405, 科目ナンバリング：LJS-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thoughtⅠ

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業（半分以上）とリアルタイム型オンライン授業の併用

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史総合演習Ⅳ／ History of Japanese Thought(Integration Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23406, 科目ナンバリング：LJS-PHI612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ぺりかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習 I / History of Japanese Thought (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13505, 科目ナンバリング：LJS-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業（半分以上）とリアルタイム型オンライン授業の併用

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅱ／History of Japanese Thought(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23504, 科目ナンバリング：LJS-PHI614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅲ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) III

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM13506, 科目ナンバリング：LJS-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題 I

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought I

3. 授業の目的と概要：参加者が各自の研究テーマに即して研究史の整理と研究史上の問題点の指摘とを行い、その報告をめぐって討論する。発表者にはそれぞれコメンテーターを付ける。参加者それぞれが、専門とする研究対象や分野の垣根を超えて活発な議論を行うことによって、相互の問題意識を深め、研究方法を錬磨していくことを目指す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The reporter organizes the research history of each research theme and points out problems in the research history, and participants discuss the report.

5. 学習の到達目標：日本思想史の研究手法の会得と深化

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquisition and deepening of research methods of the history of Japanese Philosophy.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態： 対面授業（半分以上）とリアルタイム型オンライン授業の併用

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表 1
- 3、研究発表 2
- 4、研究発表 3
- 5、研究発表 4
- 6、研究発表 5
- 7、研究発表 6
- 8、研究発表 7
- 9、研究発表 8
- 10、研究発表 9
- 11、研究発表 10
- 12、研究発表 11
- 13、研究発表 12
- 14、研究発表 13
- 15、研究発表 14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリカン社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは 1 日前、小論文は発表終了後 2 週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：日本思想史研究演習Ⅳ／ History of Japanese Thought (Advanced Seminar) IV

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：片岡 龍、引野 亨輔

コード：LM23505, 科目ナンバリング：LJS-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本思想史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Varies issues of history of Japanese thought2

3. 授業の目的と概要：演習参加者が各自の最新の研究成果を発表し、それをめぐって討論を行う。発表者にはそれぞれコメントーターを付ける。発表後、授業での批判と意見を踏まえて本格的な学術論文の作成を進め、提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Participants will present their latest research results and discuss them. (See Japanese text above for details.)

5. 学習の到達目標：研究論文の作成

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Writing research papers

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1、ガイダンス
- 2、研究発表1
- 3、研究発表2
- 4、研究発表3
- 5、研究発表4
- 6、研究発表5
- 7、研究発表6
- 8、研究発表7
- 9、研究発表8
- 10、研究発表9
- 11、研究発表10
- 12、研究発表11
- 13、研究発表12
- 14、研究発表13
- 15、研究発表14

8. 成績評価方法：

平常点（出席・発表・コメント・質疑、プレレジュメ・中間レジュメ・小論文）[100%]

9. 教科書および参考書：

佐藤弘夫編『概説日本思想史』

荻部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』

『日本思想史辞典』（ペリかん社）ほか

10. 授業時間外学習：プレレジュメは前々週金曜日まで、中間レジュメは前週金曜日まで、本レジュメは1日前、小論文は発表終了後2週間以内に完成するよう準備する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：